

# 第14回 (昭和42年度) 風に関するシンポジウム〔プログラム〕

共催学会：地震学会・土木学会・日本海洋学会・日本気象学会・日本建築学会(本年度幹事)・日本航空学会・日本地理学会・日本農業気象学会・日本林学会  
 期日：昭和42年12月8日(金) 9時30分～17時00分  
 会場：東京都北区西ヶ原 2-1 農業技術研究所講堂(国電上中里駅—上野駅より北へ4つ目—下車、山側5分上り大通り右側すぐ)

## プログラム：

- |  |   |
|--|---|
| 1. 昔の大風の勢力の変化に対する一考察<br>真鍋大覚               | 11. 運動角柱に作用する風圧の動的効果<br>石崎 澁雄<br>○許 昌九                              |
| 2. 第2宮古島台風の暴風の特性について<br>○光田 寧 宮内賢二 吉住禎男    | 12. 吊橋補剛桁に作用する空気力に関する2, 3の考察<br>○小西一郎<br>白石成人 宇都宮英彦 辻 勝成            |
| 3. 第2宮古島台風による被害について<br>石崎 澁雄 桂 順治<br>○室田達郎 | 13. 三角山模形を用いた風洞実験<br>石田 一郎<br>○渡辺忠夫                                 |
| 4. 冬季北陸地方に卓越する南風について<br>中村和郎               | 14. 淡路島空港の地形模型風洞実験<br>石崎 澁雄<br>光田 寧 ○宮内賢二                           |
| 5. エックマン層に関する一考察<br>石崎 澁雄                  | 15. 境界層の拡散 (2)<br>○加藤真規子<br>坂上治郎                                    |
| 6. 3次元の重力波 (2)—気圧および風速分布について—<br>古川武彦      | 16. 海面に拡がる原油からの蒸気の拡散<br>坂上治郎 ○元良誠三                                  |
| 7. 水面上の風速分布と水面の粗さについて<br>赤川浩爾<br>○二宮佳夫     | 17. 近距離の拡散<br>坂上治郎  |
| 8. 水面附近における風の影響<br>箕原亮<br>田村 勇             | 18. 地形の影響を考慮した拡散の数値実験<br>日野 幹雄                                      |
| (昼食・休憩)                                    | (休 憩)   |
| 9. 変形する風向計の振動<br>○佐貫亦男<br>木村 茂 阿部 圭 林 弘明   | 特別講演 I. 最近の拡散実験について<br>坂上治郎<br>同 II. 構造物と風のシンポジウム(カナダ)に出席して<br>塩谷正雄 |
| 10. 風速変動の長周期成分について<br>光田 寧<br>○花房竜男        |   |

## 自然放射能とエアロゾル月例会プログラム

日時：42年11月11日(土)(秋季大会終了翌日)10時より  
 場所：東京理科大学理学部第一輪講室(1号館4階)  
 講演：

- 中谷 茂(電試)：自然放射性 Aerosol の粒径分布の吟味 (1)  
 中谷 茂(電試)：自然放射性 Aerosol の粒径分布の吟味 (2)  
 朝来野国彦(東ア総研)：拡散法による放射性エアロゾルの粒径測定  
 東理大関川研究室：大気中のエアロゾル粒子の荷電率の平衡について (1)  
 東理大関川研究室：大気中のエアロゾル粒子の荷電率の平衡について (2)  
 矢野直・朝来野国彦・前橋紀恵子(気研)：Rn<sup>222</sup> の Exhalation日変化について  
 矢野直・朝来野国彦・前橋紀恵子(気研)：夜間静穏なときの接地層の Rn<sup>222</sup>および Rn<sup>220</sup>の壊変生成物の接地層における垂直分布  
 阿部史朗・阿部道子・清水邦保(放医研)：大気浮遊じん中の Pb<sup>210</sup>, Bi<sup>210</sup>, Po<sup>210</sup> 濃度—(第1報)  
 阿部史朗・阿部道子・清水邦保(放医研)：大気浮遊じん中の Pb<sup>210</sup>, Bi<sup>210</sup>, Po<sup>210</sup> 濃度—(第2報)  
 村山信彦・志村英洋(気象庁)：地表大気の RaB/RaC 比の日々変動

村山信彦・藤本博(気象庁)：自然放射能で評価したフィルター捕集効率  
 シンポジウム：

- (1) 大気イオンと放射性エアロゾルの関係：  
 話題提供：中谷 茂(電試)  
 (2) エアロゾルの力学  
 “：阿部史朗(放医研)  
 (3) 自然放射性核種の気象学的应用  
 (a) Rn<sup>222</sup>または Rn<sup>220</sup>およびそれらの壊変生成物の気象学的应用 “：矢野 直(気研)  
 (b) エアロゾルの降水洗滌  
 “：村山信彦(気象庁)

## 気候変動シンポジウム

期日 11月18日(土)10～17時  
 会場：京都府立総合資料館第1会議室  
 京都市左京区下鴨半木町 Tel. 075-78-9101  
 京都市バス京都駅八条口より(54)号、正面上り(4)号乗車約30分前萩町(資料館前)下車

## 講演題目

- 村上多喜夫(気研) 大気循環論  
 高橋浩一郎(気研) 長期予報と気候変動論  
 根山 芳晴(広島地気) 太平洋高気圧と気候変動  
 堀江 正治(京大) 古生物学的ならびに地形学的にみた気候変化の証拠